



	生徒

令和5年度 モデルディベート原稿 (否定側が勝つ)

<役割分担>

司会 ____先生

肯定側立論 ____先生・尋問 ____先生・第1反駁 ____先生
第2反駁 ____先生

否定側立論 ____先生・尋問 ____先生・第1反駁 ____先生
第2反駁 ____先生

司会：それでは「高校でも給食を導入すべきである」という論題でディベートを開始します。肯定側立論____先生、立ってください。準備はよろしいですか？それでは始めてください。

肯定側立論 ____先生

「肯定側の第一立論を始めます。先ず定義を述べます。給食とは、生徒が対価を払うことによって学校から提供される、原則全員同一の食事を指します。

次にプランを述べます。プランは、学校が外部業者に委託し昼休みに給食を提供します。

メリットは、2個あります。

一つ目は「給食の方が栄養のバランスが取れる」ことです。

現状では、手作り弁当でも好きなものばかり入っていたり、コンビニで弁当を買ったりしていて、高校生の昼食のバランスが取れていません。

発生過程を述べます。私はコンビニ弁当を買って食べると、塩辛いと感じたり、炭水化物や脂肪が多く含まれていると感じたりします。また給食は、栄養士さんがバランスを考えて献立を考えています。よって、給食の導入によって高校生の栄養バランスは大きく改善します。

重要性を述べます。バランスの悪い食生活を続けていけば、生活習慣病につながります。私たちにとってバランスの良い食事は絶対に必要です。

二つ目のメリットは「親の負担が減る」です。

現状では、弁当を作るのにもお金と労力がかかり、親にとって大きな負担となっています。私の母は、「あなたのために毎日お弁当を作るのは大変なのよ。何で高校に給食がないのかしら。」と言っています。よって、沢山の保護者が弁当よりも給食の方が良いと考えています。現状では保護者のニーズにこたえられていません。

発生過程を述べます。〇〇君の母は、「中学で給食費を払っていた時の方が、食費が安くすんでいた」と言っているそうです。このことから、弁当を作るよりも給食の方が、費用が安くすみますし、保護者の負担は減ります。

重要性を述べます。毎日の弁当作りは保護者にとって、金銭的にも大きな負担であり、保護者は給食の導入を望んでいます。

以上2点のメリットから、私たちは「高校でも給食を導入すべきである」と主張します。

司会：ありがとうございました。これより作戦タイムを取ります。(時間省略)

立論を聞いてどんな反論ができるか考えてみましょう！

(ここで生徒に考える時間を取り、しばらくしたら周りと意見交換)

次に否定側から肯定側への質疑を行います。肯定側立論者____先生と否定側質疑者____先生は立ってください。準備はよろしいですか？それでは始めてください。

否定側質疑者 _____ 先生が質問し、肯定側立論者 _____ 先生が答える

☎：〇〇君のお母さんと言いましたが、〇〇君とは誰ですか？

☎：私の友達です。

☎：なぜお弁当ではバランスがとれないのですか。

☎：好きなものばかり入っていたりするからです。

☎：お弁当にかかる費用が負担とおっしゃいましたが、月にどれくらいの費用がかかっているの

すか？

Ⓐ：えーっと、、、誰かデータある？（他のメンバーに聞き、他のメンバーは首を振る）調べていないので分かりません。でも、弁当を作ることや、コンビニ等で買うことほうが給食よりお金がかかり、現在は負担になっていると思います。

Ⓑ：どれくらいの保護者が給食を望んでいますか？

Ⓒ：沢山の保護者です

Ⓓ：具体的なデータはありますか？

Ⓔ：えーっと、、、誰かデータある？（他のメンバーに聞き、他のメンバーは首を振る）調べていないので分かりません。

司会：ありがとうございました。では、否定側立論者____先生は立ってください。準備はよろしいですか？それでは始めてください。

否定側立論 先生

「否定側の第一立論を始めます。定義は肯定側のものを認めます。

デメリットは、2個あります。

1番目は「アレルギーを持っている生徒にとって危険である」ということです。

現状では、高校では給食ではないため、保護者が生徒の昼食を準備しており、問題はありません。しかし、給食のある小・中学校では給食のアレルギー事故が続発しています。2013年2月21日放送NHKクローズアップ現代によれば、アレルギーに気を付けて提供されていたにもかかわらず、小学生の女の子が亡くなるという事故がありました。2013年文部科学省による給食を提供する小中学校579校を対象にした抽出調査では、約4千人に食物アレルギーがあり、このうち原因食品を取り除いた給食を提供されている児童生徒は61.1%にものぼっています。

発生過程を述べます。さきほど述べた事故では、アレルギーに気を配って提供されていたはずの給食で、アレルギーのある食品が含まれていることが見過ごされたために起こりました。よって危険は完全に防ぐことができません。

重要性を述べます。アレルギーについては命に関わるものであり、重大な問題です。多くの生徒が命の危険にさらされることは避けなければいけません。

二つ目のデメリットは「給食はお金がかかる」です。

現状では、高校は給食ではないため、保護者は給食費を払っていません。しかし、給食のある小・中学校では給食費が負担となっています。文部科学省の調査によれば、平成27年度の給食費は中学校で月平均4,921円です。そのため、給食費は1年間では5万円を超える額となり、家計に負担とな

っており、給食費を払えないという問題も起こっています。

発生過程を述べます。給食がなくなれば、給食費を払う必要がなくなります。お弁当にかかる費用は、家族の食費からまとめて出すことができれば節約できるので、家計が助かります。

重要性を述べます。子供の教育費には大変お金がかかります。給食費を払わなくてよいことは、家計にとって重要です。

以上2点のデメリットから、私たちは「高校では給食を導入すべきではない」と主張します。

司会：ありがとうございました。これより作戦タイムを取ります。(時間省略)

立論を聞いてどんな反論ができるか考えてみましょう！

(ここで生徒に考える時間を取り、しばらくしたら周りと意見交換)

次に肯定側から否定側への質疑を行います。否定側立論者____先生と肯定側質疑者____先生は立ってください。準備はよろしいですか？それでは始めてください。

肯定側質疑者____先生が質問し、否定側立論者____先生が答える

Ⓐ：アレルギーについては献立に載せてあるから大丈夫ではないですか？

Ⓑ：給食を作るときには、加工品を使うこともあり、すべての原材料を明確にすることは困難です。

実際にアレルギーに気をつけていた学校でもアレルギーの事故が起こっています。危険を完全に排除することはできません。

Ⓒ：お金がかかるというのも、予算を決めて提供すれば安価が可能ではないですか？

Ⓓ：予算はもちろん決めますが、給食費を払わなければいけないことが負担になっています。

司会：ありがとうございました。これから後半戦に入ります。後半戦は否定側からです。否定側第1反駁者____先生は立ってください。準備はよろしいですか？それでは始めてください。

否定側第1反駁____先生

メリットの1番目栄養バランスについてですが、手作りのお弁当でも十分バランスは取れるし、お昼にそこまでバランスを取らなくても朝や夜で調整することが可能なので問題ありません。また、コンビニには、コンビニ弁当の栄養の偏りを補うことができるビタミンやミネラルが豊富な野菜サラダや、タンパク質が豊富なサラダチキンなども売られており、賢く買い物することでバランスをとることは可能です。

2番目に親への負担が減ると言いましたが、彼らの論は、自分の母親と友達の母親の個人的意見で、

信頼できるデータとは言えません。我々の立論で示した、給食費が親の負担になるというデータは文部科学省のデータに基づいており、信頼できます。さらに、本校の生徒には農村部で暮らしている人も多く、家で作ったものを利用すれば給食よりはるかに安価で済みます。以上より、否定側は給食にしないでよいと主張します。

司会：ありがとうございました。これより作戦会議を取ります。

第1反駁を聞いて第2反駁でどんな反論ができるか考えてみましょう！

(ここで生徒に考える時間を取り、しばらくしたら周りと意見交換)

(時間省略) 次に肯定側第1反駁者____先生は立ってください。準備はよろしいですか？それでは始めてください。

肯定側第1反駁____先生

「デメリットの1番目のアレルギーについてですが、献立に載っていたり入学時にアレルギーの調査をしているから大丈夫です。代替メニューを用意したり、その日だけ弁当も可能にすれば良いと思います。2番目のお金がかかる、というのも、原則同一のメニューであるので、食材を大量に仕入れて作れば安価は実現します。以上、否定側が主張したデメリットは2つとも成立しません。

司会：ありがとうございました。これより作戦タイムを取ります。(時間省略)

第1反駁を聞いて第2反駁でどんな反論ができるか考えてみましょう！

(ここで生徒に考える時間を取り、しばらくしたら周りと意見交換)

司会：ありがとうございました。これより作戦タイムを取ります。(時間省略) 否定側第2反駁者____先生は立ってください。準備はよろしいですか？それでは始めてください

否定側第2反駁____先生

先ほどの肯定側の反駁で、アレルギーは入学時の調査をしているということや、また代替メニューなどの案が示されていましたが、これまでもアレルギーに気を配って提供されていたはずの給食で、アレルギーのある食品が含まれていることが見過ごされた死亡事故が起きていることから、問題の解決は不可能です。さらに現在、食の安全性に関わる問題は、ますます深刻になってきています。文部科学省のデータによれば、2013年に食物アレルギーのある公立小中高校の児童生徒が全国で約45万4千人(全体の4.5%)に上り、2004年の前回調査の約33万人(同2.6%)に比べて約12万4千人増加、「アナフィラキシー」症状を起こした経験がある子供も約4万9千人(0.5%)おり、前回調査より約3万1千人も増えています。給食のアレルギー事故が続発する今、完全に危険を排除できない以上、給食を実施しないことで食物アレルギーをもつ子供たちの命を守らなけれ

ばいけません。さらに、現在各家庭では、家にある食材や余ったものなども駆使して、安価で各家庭の味覚に添いなおかつ栄養バランスも満たした弁当作りが為されている場合が多く、そこに給食を導入することは各家庭に余計な支出をさせることにつながります。コンビニのランチでも、工夫次第でバランスを取ることはできます。また、給食による経済的負担に関しては、我々の示したデータがより信頼できるため、肯定側に勝っています。以上、メリットよりもデメリットの方が大きいため、高校に給食は必要ありません。

司会：肯定側第2反駁者_____先生は立ってください。準備はよろしいですか？それでは始めてください

肯定側第2反駁_____先生

否定側の提示したデメリットはまったく成立していません。アレルギーの生徒などに個別対応することで、問題は起こりません。また、一気に同じメニューを作ることが食材費のみならず電力やガス等の節約にもなり、家庭で作るより経済的と言えます。これにより肯定側は給食にすべきと主張します。これにより肯定側は給食にすべきと主張します。

司会：ありがとうございました。お疲れさまでした。これより審査を行います。肯定側が勝ったと思う人は手を挙げてください。否定側が勝ったと思う人は手を挙げてください。これでディベートを終了します。ご清聴ありがとうございました。